

例会プログラム

新年度会長方針 ●片岡孝次会長



四つのテストと、『7つの習慣』を鑑みたクラブ運営

『7つの習慣』とは、

①主体的なこと

主体的な人は、間違いを早急に認めて自己修正を図る。さらに、そこから教訓を得るものである。このアプローチにより、失敗が成功のもととなる。)私

は1993年龍野コルクに入社いたしました。以降、伊藤充弘会員には5,000円貸して!と言われて龍野納税協会青年税務研究会(現、青年部)に、ロータリークラブには、浅井良平会員・嵯峨山章会員・玉越進会員・浅井研介会員・伊藤哲郎会員はじめ多くの方々に納税協会の宴席で取り囲まれ、盃を何度も交えた後入会を決意したことを昨日のことに思い起こします。私は、気が付いた時には入会していた。先輩諸氏の圧に押されて入会しましたが、心底入会させていただき感謝しております。少々強引と言われても、失敗を恐れずに会員増強に力を注ぎ、「強引に入会させられたなあ!」から、「入会させていただき良かった」と思う会員を一人でも多く生み出すことに力を注いで参ります。失礼があればお詫びいたします。ご協力をお願いします。

②終わりを思い描くことから始めること

今日のこの日と比べて、一年後の龍野ロータリークラブが、和気あいあいとメンバーが集い学び、多様性が膨らんでいることを目指します。

③優先事項を優先すること

本年度は、例会場にいつも新鮮な空気が注がれ、熱気であふれるよう、新入会員や新入会員候補者を一人でも多く例会場に招き入れることを優先させていただきたいと考えています。

④Win-Win を考えること

新入会員を入れることができ喜びを感じる。新入会員は入会して本当によかったと思える。このような集まりを目指します。

⑤まず理解に徹し、そして理解されること

会員の皆さまが、互いの話をよく聞き、また自身の体験や価値観を話す場となるように、例会プログラムに工夫をしまいたいと考えています。

⑥シナジーをつくりだすこと

少し口うるさいお話をさせていただきます。私が入会した2002年から10年弱の間、浅井彌七郎会員、入江慶次郎会員、西田晴彦会員はじめ、お顔、お姿を見ているだけで勉強になる会員が、数多くおられました。例会場の皆さんは、『良いお辞儀、話を聞く良い姿勢』でおられました。中でも50年間ホームクラブ100%出席を貫かれた浅井彌七郎会員のお姿を忘れることはないと思います。(あくまで私が認知症にかからなければですが...)2009-10年度の公式訪問事前報告書を最後に、浅井彌七郎会員のお名前が消えた後、龍野ロータリークラブの話聞く意識が低下したのかもしれませんが、私が思う「良い姿勢」とは、

●話す相手に向いて座る

●足は組まずに胸を張り、ちょっと前かがり・前のめりの姿勢で座る

●相手の顔（目や額、眉間あたり）を見るというものです。足を組み椅子に腰かけることはカラダのバランスをとるためだと言われています。カラダの右側にある 1.3kg～1.5kg の肝臓が理由だと言われています。しかし足を組んで座ると、

①横揺れに耐える役割を担っているお尻の筋肉が引き延ばされて弱くなる。

②弱くなったお尻の筋肉に替わり横揺れに耐えようと外モモがはって太くなる。

③お尻の筋肉が伸びてタレ尻になる。

④骨盤が歪む。⑤腰痛の原因になる。といった具合に良いことは一つもありません。本條会員や、伊藤会員のように両足を地につけて、少し前かがりで座り、骨盤が立つ姿勢を意識してみてもどうでしょうか。

⑦刃（己）を磨くこと

意見を出し合う時には、評論家・批評家のような発言は慎む。選択肢を増やす発言をする。選択肢を奪う発言は慎む。意見の背景の理解に努める。皆が Win-Win になるような時間となるような発言につとめること。

以上の7つに意識を置いて、会長をつとめたいと思います。

今年度は、私が入会した当時に近い、クラブ運営部門の委員会を設けました。全ての会員は、クラブに所属するではなく、「参加する」に、変わっていただきたいからです。皆さまから、少しずつご協力をいただきますようお願いいたします。

一年、ご指導をお願いいたします。